

研究の概要

1 研究テーマ

どの子ども「わかった」「できた」と実感できる算数科の授業をめざして
—特別支援教育の視点を生かした指導の工夫—

2 研究主題設定の理由

本校は、通常学級の中にも「困り感」をもった子どもたちが多く、落ち着いて話が聞けない、既習事項が十分身につけていないなどの理由で一斉授業に参加できにくいという実態がある。そこで、平成24年度から「特別支援教育の視点」を取り入れた指導の工夫に国語科および算数科で取り組んできた。研究を進めていく中で特別支援教育の視点を生かした指導は、特別な支援を必要とする子どもたちだけでなく、すべての子どもたちに対しても有効であることを実感してきている。

今年度は算数科3年目の研究になるが、算数科においても日々授業改善を行い、「焦点化」「視覚化」「共有化」を掲げ、より分かりやすい授業づくりをめざしていきたい。

※ 筑波大学附属小・桂聖先生の著書より引用

「焦点化（シンプル）」・学習目標や活動を絞ること。見通しをもたせること。

「視覚化（ビジュアル）」・授業内容を見える形にして、理解を手助けすること。

「共有化（シェア）」・一人の考えをほかの子どもたちに伝え、理解を深めていくこと。

（ペアトーク）

3 めざす児童像

低学年	操作活動を通して、自分の考えを表現する子
中学年	自分の考えをもち、分かりやすく説明する子
高学年	見通しをもって考え、筋道を立てて説明する子



【研究仮説】

どの子どもにとっても有効な特別支援教育の視点を生かした授業を取り入れていけば、より積極的な姿勢で、楽しく授業に臨むことができ、「わかった」「できた」を多くの子どもたちが実感する授業となるであろう。

4 環境面での共通理解

- ・ 前面掲示をやめる。→黒板以外の刺激をなくすことで、授業への集中度が増した。
- ・ 児童の椅子にテニスボールをはめる。→雑音が減り、授業への集中度が増した。
- ・ 授業（1時間）の流れを示す。→見通しがもてない児童が安心して参加できた。
- ・ 発表の仕方・聞き方あいうえお・学習時の姿勢・声のものさし→繰り返し指導（学習規律）
- ・ めあて,まとめ・・・赤で囲む。



5 授業における共通理解

算数科において授業をもっと分かりやすく、支援を要する子にも参加できる時間を増やしていくために、以下の支援を行う。

- ① クラスにいるAさんを想定し「焦点化・視覚化・共有化」などの指導の工夫（全体指導）をする。これらは、他の子のためになることが多い。～そのためには、教科の本質に根ざした質の高い授業改善が必要～
- ② 指導を工夫しても活動に取り組めない子への「個別の配慮」（授業時間内での個別指導）～できるだけさりげない配慮～
- ③ 学級の実態によっては授業時間でも理解が難しい子への「個別の特化した配慮」（学級担任により授業時間外での個別支援）

※ 昨年度できていること

- 説明するときの話型「まず」「次に」「最後に」
- 授業の中にペアトークを位置付ける。
（全員参加の場を保証）
（自信になる→全体発表へ）



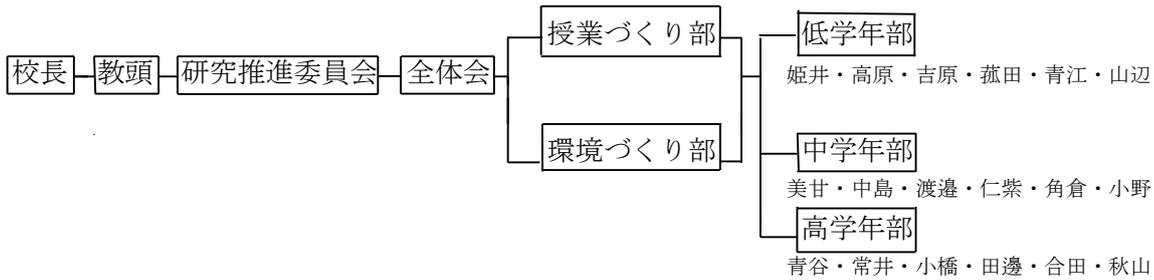
6 ぐんぐんタイム（読み書き計算の徹底を。）

週3回実施：火曜日 13:35～・水、木曜日 8:20～

- ・ 流れを示す。
- ・ リズム・テンポ・キレのある15分を
- ・ タイムタイマーの活用
- ・ 倉敷教育ネット→フラッシュ学習の利用など



7 研究組織



8 研修の予定

4月	○研究計画 4/3 (月) 教科・研究テーマの共通理解 ○研究の概要・指導案の確認	10月	○全体研 4-2 (仁紫) 10/5 (木) ○学年研 2-1 (吉原) (修学旅行 10/12, 13)
5月	○校内研修会 ぐんぐんタイムの仕方 フラッシュ学習・音読・2分計算など (運動会 5/28)	11月	○全体研 1-2 (高原) 11/7 (火) ○学年研 1-1 (姫井) ○学年研 算数 (角倉) ○学年研 なかよし2・3組 (小野・山部) (陸上記録会 11/8) (学校音楽祭 11/16, 17)
6月	○学年研 なかよし1組 (青江) ○全体研 5-1 (青谷) 6/28 (水) ○学年研 5-2 (常井) (山学 6/14, 15, 16)	12月	(学芸会 12/1) (学年末)
7月	○学年研 6-1 (小橋) ○学年研 6-2 (田邊) (学期末)	1月	○ (学年部) 研究のまとめ
8月	○校内研修会 8/29 (火) 午前中 講師：ノートルダム清心女子大学 杉能道明先生 (算数)	2月	○ (全体会) 研究のまとめ 研究集録完成
9月	○学年研 2-2 (菰田) ○学年研 4-1 (渡邊) (海学 9/20, 21)	3月	○ (研推) 来年度に向けて (学期末)

1 算数科における具体的な取り組み

① 焦点化

- ・問題場面の提示の仕方を工夫して、めあてを捉えやすくする。
- ・めあてを子どもとつくる。
- ・問題を解く前に、しっかりと前時のふり返りや解き方のヒントを全員で確かめる。
- ・1時間の授業の流れをパターン化しておくことで、児童が次に何をすればよいか分かりやすくする。
- ・1時間の授業でポイントになるところは先におさえておき、それを使って練習問題・発展問題が解けるようにしておく。

② 視覚化

- ・既習事項や算数用語の掲示物を掲示する。
- ・ノートと黒板を対応させて書く。
- ・デジタル教科書を使う。(特に図形問題。合同など、目で見て分かるように。)
- ・具体物の操作をすることで問題を捉えやすくしたり、問題を解決しやすくしたりする。

③ 共有化

- ・ペアトークの場を設定し、どの児童も授業に参加し、考えを共有できるようにする。
- ・ペアトークでしっかり自分の言葉で説明させる。
- ・ペアトークで自分の考えの確かめ、発展問題ではグループトークを取り入れ、考えの共有化を図り、深めるようにする。
- ・「まず」「次に」「最後に」の話型を基本とし、慣れてきたら話型を崩しても説明できるようになればよい。
- ・ペアトークや説明の仕方が学年を追うごとにレベルアップしていくとよい。

2 今年度、算数科で深めていきたいこと

- ペアトークでは、具体物を操作したり言葉を用いたりして友達に分かりやすく説明するとともに、相手の説明を聞く力を育てたい。
- 支援が必要な児童への手立て。
- 考えを深めるところ。(意欲をもって学習に取り組むことができるようにはなってきた。)
- ふり返りを、「**わ**かったこと・**か**んばったこと・**と**もだちのよかったところ・**も**っと知りたいこと」で書けるようにしたい。
- 友達の発表をよく聞き、聞いたことを自分の言葉で説明できる、友達の発表内容が理解できる、というように聞く力が育っていくとよい。